

次ページへ続く

Continued on next page...

早大図書館蔵教林文庫本翻刻 (四)

——山王関係資料二種——

小 峯 和 明

前号に続き、日吉山王関係の資料『山王権現略縁起』『山門秘書記』の二点を翻刻する。

翻刻に際し、原則として旧字体・異体字の類は通行の字体に改め、濁点を私に付した例が多い。改頁に「」、改丁に「」を付した。なお、前者は印刷の都合により、ふりがなは省略、頭注は下段に付した。

書誌の概要は左記の通り。

山王権現略縁起

写本一冊。文庫7/38。タテ二八・九センチ、ヨコ二〇・七センチ。

袋綴。墨付二十五丁。巻末に元禄八年夏、比叡山鶏足院の大僧都覺深の識語と宝永四年八月にこれを伝領した鶏頭院嚴覚の識語がある。

山門秘書記

写本一冊。文庫7/292。タテ二六・一センチ、ヨコ一八・一センチ。

袋綴。墨付四十五丁。上下巻の間一丁は白紙。巻末に天和二年七月二十六日に鶏頭院嚴覚が相伝した識語がある。後表紙見返しに「山門 鶏頭院本覚蔵 嚴覚」の印あり。

* 翻刻を御許可いただきました早稲田大学図書館に深謝申し上げます。

山王権現略縁起

夫日吉山王大権現と申奉るは遙に真如寂

静の都を出ておのづから和光利益の

塵にまじはり遮那止観の法器をたくはへて

一天四海の擁護をなし給ふ御本地をたづね

奉れば久遠正覚の仏陀薩埵也御神号を

訪奉れば神代出現の天神地祇なり故に

応化の三身をもつて神体とし御身体におのづから法報応

化の功徳を備へ横堅の三諦をもつて法号とす

山の字は横の一点に堅の三点をくはへ王の字は横の二点をくはへたりこれすなはち空仮申道の三諦に仮不横にして円融圓滿なるを置候也

今利生のため護国のため靈魂を陰陽かた

ちにうけ陰陽不測造化しわざなき御神体なり 応迹を叡山の麓に

垂一切衆生を哀愍して神威をほどこし

衆魔群道を降伏して仏法を守り給ふ

されば幽凌を祭りて神と号せざるゆへに

三熱のくるしみなく悪業をしつめんために神にあかめ奉りたる社は実者の神と号して三熱のくるしみましまさるなり

ますなり然に山王権現は仏菩薩垂迹示現靈氣の窟所のこと也当社は陰陽なれば煩悩業苦のなやましまさるなり 霊壘をあげめて

社をたてざるがゆへに不測の明神なれば清浄の宮社也

一業のうれひなし自業なきがゆへに利他

無窮なり遠近を照すがゆへにまたは日吉と

名づけたる抑此御神は天にありては

七星とあらはれ地にありては七社と号して

鎮護国家の神明也人にありては面上の七竅也

七社に又上中下あれば三七二十一社もおのづから

天地人の三身をかたどれり誰か是を

信敬し奉らざらんや中七社下七社は事し

げきゆへに是を略す上七社の御神の

来由を粗記し侍る事左のごとし

一大宮権現と申奉るは御神体は大己貴の命

と申奉る和州三輪の明神と御一体の御神也

天武天皇白鳳元年卯月中の申の日見の

かたちを現し給ひて仏法弘通の靈地を

尋ね三輪の里より大津の八柳に降臨し

たまふ折しもあはづの田中の恒世と申

せし人漁舟に棹さしてあそび侍ればかの

船にめして唐崎の浜に着給ふここに琴の

御館と申せし人出迎奉りければ此所に仏法

弘通の靈地となるべき所やあるととひ給ふ

琴の御館答て申さくされば此沖に常に

五色の波立侍る然ば此水のみなかみをたづ

ねたまはゞ靈地なるべしと申せしかばすな

はち又御船にめしてかの波を御らんあれば

誠にたつ波五の色をわかちてながれ侍る

されば此波のたちどをたづねんとおぼして

新千載集権下 前留止 藤勝
よる波の五の色は
みどりなる松にそ
のころしかのからさき

又辛崎にাগり給ひてことのみたちに告給ひけるは我は此五色の水のみなかみをたづねてそこにしづまりなんさてそこにしるしをさし置べし汝たづね来りて宮所をたて

新後撰集 祝部成茂
からさきやさき
うらはにこきゆる
神の御船の
跡をしを思ふ

永く祝部となれと仰られしかば琴の御館

あやしき仰なりと疑ひおもひければ権現大神力を現し給ひてめしたる御舟をから崎

の松の木末に引あげ給ふ琴の御館おどろき

信じてかしくまり申せしからさきより又御船

にめしてかの五色の波の水かみをたづねて比叡辻

のうらへおもむき給ふその時供御やあるとた

づね給へば恒世しかるべきものなしここにきよき

統千載集神祇
いにしへに神の御
船を引かけし
梢や今の松
ささきの松

粟の飯の侍ると申せしかばすなはちこれを

めしぬかくて比叡辻に着給へば恒世にいとま

たまはり帰し給ふとき汝がけふの恩を報

ぜんため毎年卯月中の申の日辛崎に影籠

すべし汝も来り遊べしとの給ひしかばかし

こまり申て又漁舟に棹さして恒世は帰りぬ

後に神とあらはれ給ふ今の粟津の明神是也

されば毎年の祭礼にからさきに渡御なりて

粟の御供をあはづより備へ奉る事この縁より

はじめりかくて御神は比叡辻より三津

川のながれ五色の波にそひて遡給ふ程に

日枝の山の麓に一切衆生悉有仏性如来常

住无有変易といふ涅槃経の文水のひゞき

に聞へければあやしみ立より見たまへばかの

五色の波はこよりぞ立出ける掬は我あとを垂

て一切衆生を利益すべき霊地は爰なりとおぼし

めしてつき給ふ櫛の御杖を突立て杉の枝

を引むすびしるしとして頓てそこにしづま

り給ふ今の大宮の宮地これなりかの経の文の

ひゞきより五色の波のたち出侍りしは今の

大宮の神前波止土澁の川是也掬琴の御館

は神約をたがへず御あとをたづねて来り

見給ひしかば御杖の櫛生付て枝葉さかへ

杉の枝を引むすび置給ひしを見付奉り

て掬はここに静まりたまひぬとしりぬし

かれども尚しるしやあると其夜はそこに

通夜したまへば夜中に光明赫奕たる

大日輪現し給ふさてはうたがふ事なしとてや

がて此所に宮柱ふとしまたてゝ権現を

あがめまつり奉り其身は祝部となりて

ひたふるにつかふまつり給ふ後には神とあ

らはれて山末明神と申奉りて祝部の祖

神是也しるしより後伝教大師比叡山を

ひらき給ふ時権現又あらはれ給ひて天台

の仏法を守護し国家を擁護したま

はんとの御ちかひましますゆへに代々の帝も

山王権現を御尊崇他に異にして神階を

上りたまふ元慶四年五月十九日に正一位勲

一等の位階を添給ふ御本地は久遠実成の

釈迦如来にてましますば一切衆生におゐて

唯我一人能為救護の御本願ふかきゆへかく

神明とあらはれて和光同塵の結縁を

なし給ふされば法橋性意日吉大宮の本地

をおもひ出てよめる歌に

千載集神祇

いとなく鷲の高ねに澄月の

光をやどす志賀のから崎

又後京極摂政の歌に

統後撰集神祇

いにしへの鶴の林にちる花の

にほひをよする志賀の浦風

かかるたふとき御本地垂迹の御神なれば

誰かこれを仰ぎ奉らざらんや

一二宮権現は御神体は国常立尊にてまし

ませりこれ則日本開闢の根元有情非

情もみな此御神の化生し給ふ事なれば

尤うやまいたつとみ奉るべき御神也大宮

権現よりききだちて人寿二万歳のむかし

より小比叡の峯にあとを垂たまへば当社に

おゐては地主権現と申奉る事ふかき子細

あり余社にては大己貴尊を地主権現と申奉る也御本地は浄瑠璃世界の

教主薬師如来にてましますり十二上願の

中にも第七の大願には我名号を一たび

耳にふれたらん人はもろくの病悉のぞき

身心安楽にして家族資具悉豊に足て

終には疾无上菩提をさとらんとちかひ給ふ

誠有がたき御利益なりされば根本

中堂には薬師如来をあがめて鎮護國

家の霊場とし麓には二宮権現とあらはれ

て和光の結縁をなしたまふ慈鎮和尚

此ころを

新古今神祇

やはらぐるかけぞ麓に曇りなき

もとのひかりはみねにすめども

と詠じ給ふぞありがたき

一聖真子権現は御神体は正哉吾勝勝速日

天忍穗耳尊と申奉る則天照太神第一の

御子なり後には八幡大菩薩とあらはれ給ふ

我朝宗廟の御神異国降伏の神威をあ

らはしたまふ国家守護の威力ことにすぐ
れ給ふ御神也天武天皇御宇白鳳元年に叡
岳の麓に迹を垂給ふ建長二年二月九日

正一位の神位を叙し奉り給ふ御本地は西方
能化の弥陀如来四十八願の舟には十悪五
逆の罪をえらばず生死の海をわたして安
養浄土の彼岸におくり給ふされば権少僧
都良仙聖真子の宮に読て奉りける歌に
後撰集権少僧
やはらぐる光はへだてあらじかし

にしの雲井の秋の夜の月

むかし念仏堂に籠りて称名念仏して通夜
し侍りける人の夢に聖真子権現いとたふとき
御声にて宝殿より告給ひける御歌に

ちはやふる玉のすだれを巻あげて

ねぶつの声をきくぞ嬉しき

かかれば此御社に詣で侍る人はまづ六字の
名号をとなへて法樂し奉らば尤神の御心
にも叶ひ侍りぬべし此御方便にて終には
西のそらにこころのやみも晴なん事いと
ありがたき御利益ならずや

一八王子権現は神代天神第二の御神国狭楯

の尊にてましましける此御神体異説あり先
一説によりてこれを尊す人王
十代崇神天皇即位元年に八人の王子を引
率して叡岳の麓金の大嶽のかたはらに

天降給ふゆへに八王子と号し奉る建長二年二
月九日正一位に叙し奉り給ふ御本地は千手千
眼観自在菩薩にてましませば遊於娑婆世界
の御利益余尊にこへて一心称名のともがらに
すみやかに三毒七難をはなれはやく二求
両願をみつさればかれたる木をも此尊の

陀羅尼を誦して加持せば忽に花咲みの
るべし況や有情有識の人願としてみて
ずと云事なく災としてのぞかずと云事なし
と説たまへりいとありがたき御ちかひ
なるべしされば月清集の中に八王子の
御ことを詠じ給へる歌に

枯はつる梢に花も咲ぬなり

神のめぐみの春のはま風

御本地のちかひをおもひよそへて詠じ
たまふなるべし

一客人権現は御神体伊諾門の尊にて

ましませり越の白山にては妙理大権現と
申奉り山城の国にては愛宕権現とあらはれ

給ふ桓武天皇の御宇延暦元年に八王子の
麓に跡を垂給ふ越の白山より鎮護國家
のため此所に來臨ましますゆへに客人と
申奉る当社も又建長二年に正一位に叙し
奉り給ふ御本地は十一面觀音の応化なり
凡頻那夜迦と申神のなす災難は一切の
仏菩薩も是をのぞき給ふことたやす
からずしかるに此尊は方便善巧をめぐらし
て同類の身を現にし快此災難を払一切
の厄難を除給ふ事諸尊に勝給ふとや
前大僧正道玄当社の御事を
新千載神祇
わきてなをたのむ心も深きかな
あとたれそめし雪のしら山
又後京極の歌に
ここに又光を分てやどすかな
こしのしらねの雪のふる門
一十禪師権現は天津彦々火瓊々杵尊と申
奉るすなはち天忍穗耳尊の御子なれば
天照太神の皇孫にて日本國のあるじとして
高天原より我朝にあまくだり給ふ天照
太神御手づから三種の神器を授給ひて
豊葦原千五百秋之瑞穗國は是吾子孫

の王たるべき國也汝治たまへとて此二神
をさしそへて日向國高千穗峯にくだし
給ふ其後桓武天皇延暦二年に我山の麓
に跡を垂鎮に天長地久の擁護をなし給ふ
神代第十代にあたりて受禪即位し國を
たもち給ふゆへに十禪師とは号し奉るもの
なり正一位の叙位年代上におなじ御本地は
无仏能化の地藏菩薩にてましますば殊
更誰もくたのみ奉るべき御事なり
後京極撰政の
統後撰集神祇
木の下にうき世をてらす光うせ
くらき道にも有明の月
と詠じ給ふは当社の御本地を思ひ出給ふ
なるべしむかし一条院の御時時重といひし
人千部の法華經を誦誦せんと願をたて
けれども身まづしくて僧一人かたらふ
べきやうなかりしかばおもひかねて日吉の社
に詣て二心なく祈り申せしにはからざるに
上總の守になりけりかくて千部の經を誦
誦せしあける夜の夢に貴僧枕に立て
善哉善哉汝一乘誦誦を企る事はとて感
涙をながして随喜し給ふ時重夢の内に

かく仰らるるは誰人にてわたらせ給ふと申
せしかば吾は一乗守護の十禪師也との給ひて

一乗のみのりをたもつ人のみぞ

三世の仏の師とはなりぬる

と詠じ給へば時重たうとくおぼへて生死を
ばいかで離候べきと申ければ

極楽の道のしるべは身をさらぬ

心ひとつのなをきなりけり

掬かへらせ給ひけるが又たち帰り給ひて

朝夕の人のうへをも見聞らん

むなしき空の煙とぞなる

無常をさとりて御世をねがふべきよしを
しめしたまふ也此事古今著聞集に見へ

侍るいとありがたき御事なり

一三宮権現は天照太神の御姫宮田心姫滝

津姫市杵島姫と申奉る三女をもつて

御神体とするがゆへに三宮と申奉る或は

三女の第三市杵島姫を祭り奉るゆへに

三宮と号し奉るとも申其外異説あり

延暦六年に紫雲にめして金の大蔵の傍

に天降まし／＼て七社の内に列給ふ正一位に

叙し給ふ年月亦上のごとし御本地は普賢

菩薩にてましませば恒順衆生の御願殊

に頼母布実相同体の薩埵なれば世間

相常住のごとはりには現世安穩の利生あ

らたに当昇初利の文には後生善所の欣

求たのみあり統拾遺集に当社の御事を

末の世のちりにまじはる光見る

人にしたがふちかひなりけり

と詠ぜしは恒順衆生のちかひをたとひ

よそへ侍るにやいとたうとき御利益也

一早尾大権現は御神体猿田彦大神也此御神は

神孫降臨の時日向国高千穂峯へ出向て

道引し給ひし御神なりされば淑望の歌に

久かたの天の八重雲ふりわけて

くだりし君を我ぞむかへし

と詠じ侍るは此御神の御ことなり此歌

新古今集に見へたり其かたちかほ

あかく目もほりつきのごとくにして鼻たかし

一切すべて道路を守りたまふゆへに諸神

の祭祀にかならず御かほのかたちを作りて

さきだちてわたし奉る俗是を王の鼻と

称す軍陣にては先手の備へのごとし故に宮所

も七社のさきに出て建奉れり内宮にては

興玉と申す御本地は不動明王なれば一持秘

密呪生々而加護の御ちかひ尤たうとき

御利益なり白髭大明神も此御神と御

一体分身の御こと也

一大行事権現は御神号高皇彦靈尊と申

奉る十禪師権現の御祖父にてまします

ゆへに二宮のうしろに宮所をソテ鎮に

皇孫の御行化を助け給ふ御本地は多

聞天王にてましますゆへに殊更衆生に

福德をさづけ給ふ令百由旬内无諸衰

患とちかひ給へば殊にたつとみ奉るべき御神也

一中七社と申奉るは異説まち／＼なりと

いへども一説によらば

下八王子 御神体天御中主尊 本地虚空蔵菩薩

王子宮 御神体熊野若一王子 本地文殊師利菩薩

早尾 御神体猿田彦御神 本地不動明王

大行事 御神体高皇彦靈尊 本地毘沙門天

聖女 御神体宇賀の御魂 本地妙音天
亦是神功皇后則御賀子權現御母也

牛御子 御神体牽牛星 本地大威徳夜叉明王

新行事 御神体奥津姫 本地弁財天也

一下七社と申奉るは是また異説ありといへ

ども一説によりてこれを記す

小禪師 御神体彦火々出見尊 本地龍樹菩薩

大宮竈殿 御神体大歳神 本地大日如来

二宮竈殿 御神体天照太神 本地日光菩薩

山末 御神体琴御館 本地摩利支天

岩滝 御神体踏鞢姫 本地如意輪観音

劍宮 白山第一皇子金劍明神 本地俱利迦羅明王

氣比 御神体去来紗別神 本地聖観音
亦是仲夏天皇饗問の氣比明神則御賀子權現御父也

略して記することかくのごとし

一当社卯月中の申の日の祭礼は白鳳元年

に大宮権現御影齋の時田中の恒世に

神勅ありし事をおぼして延暦十年に

伝教大師初て奏聞を経て祭礼の儀式を

執行給ふしかりといへども事いまだ備はら

ざりけるに弘仁年中に夢の告ありて嚴

重の祭礼をおこなはれ神輿の莊嚴渡

御の軌則天下無双の祭祀なり慈恵大師

の御時天元二年卯月申の日殊更に嚴

密の儀式として龍頭鶴首の船をうかめ

音楽を奉して七社の神幸をなし奉り

給ふ人王七十一代後三条院御宇延久四年

四月二十三日に勅会の祭礼をおこなはれし

より朝廷の年中行事となりたるよし

公事根源抄には見へたり其後人王八十四代
順徳院の御宇建保二年に左近衛権中

将藤原資平朝臣を勅使にたて給ひし

より此かた毎年勅使を發遣し給ふ

ことたへず誠に末代のいまに至るまで天

台座主より 禁闕に奏聞したまひて勅

会の祭礼をとりおこなはるゝ事毎歳不易

の恒例也其外粟津の御供船には珍膳を

飾音楽を奏して唐崎に向ひ奉り末の日

の御供は洛陽より七社の神供を天台座主の

御本坊に捧行て御加持已後坂本に帰参

す又御櫛は大津四宮ならびに松本平野

明神粟津五所社の神人等供奉して

坂本櫛の宮に渡し奉る其外江州守山

の住人飴糖を献じ片田の竹鼻一党は

神輿の雨皮を持参す七社の神輿の

船は江州湖海の舟人の役送として

方船をよそひて漕ぎつらぬかかる大札

余社にいまだ其例をきかず且又五月五日

小五月会の御祭礼は弘仁十年より事おこ

りてこれも毎歳不易におこなはる馬頭

二十一騎赤装束くろしやうぞくにてきそひ

よす其外九番の行例あり此内第八
番には駕輿丁の公人馬場をわたる事

卯月の御祭礼のごとしとかやくわしき旨

はこれを略す此御祭礼は異国対治の

表示として天下泰平の御祈禱なれば

殊更やむごとなき大札なり又日吉臨時

の祭は建暦三年十一月十八日よりはじまり

侍りぬ順徳院の帝の 勅願として 勅

使を立給ひしよりは是も恒例の祭ごとく

なれり凡山王権現の御利益は天下国

家を守り給ふべき御ちかひ也されば

伝教大師の御釈に吾此山王は日域冥神

陰陽不測造化無為遊心法性垂化実相

弘誓垂仏護国為心と判じたまへるなり

又文永元年三月二十七日の院宣にも天台

四明の嶺正当帝都之良日吉七社之社檀

鎮守鬼門之方我国中雖多仏陀利生梵

宇当寺之外未聞皇帝本命之道場と

あそばされし事誠に山門の美日山王権

現の余社に勝りたまへるゆへならずやしかれ

ば則此権現をたつとみつかへ奉る人は

現世安穩後生善所の望をとげずと云

ことなし慈鎮和尚の御歌にこのころを

君が代にあふみの海の神垣や

人のねがひをみつのはま風

と詠じ給ふぞ誠にいとありがたき御事也

或人山坊に来て 山王権現の来由を

記せんことを乞然に山王一実の神道は

御本地垂迹につきて深秘の習あり

其事蹟亦広大無辺なればおろかの

才をもつて□して是を記せんこと尤

神慮恐あり且は人の謗も憚なきにし

もあらず故に再三これを固辞すと

いへども降臨鎮座の趣をしらざれば

人の信も発り侍らず人の信敬なけ

れば神威もかろきに似たりしかれば

神威を添奉らんためになどか是を

記せざらんと乞げにも我才のみじ

かく神道につけても愚なる事は

十目の視所十手の指ところなれば

栄辱の分はこれを記せずとも掩べから

ずたとひ又須弥を墨となし海水を硯

となしたりとも神慮の深き所以は是

を書尽しがたくや侍らんしかれば

鷓鴣は深林に巢をつくりても其

やどる所は一枝にすぎず堰鼠は巨河

の水を飲めども至る所腹にみつるに

すぎざれば抑泰山の片塵を捨て

人の需を塞ぬ若是を讀て一念の

信もおこり侍る人あらば一分の利生

方便ともなり且は我神の神恩を報じ

奉る一端ともなりなんかししかあれば

神明もこれをゆるし給ひてんや人のそ

しりはさもあらばあれと思ふことしかり

書元禄八載龍集之亥孟夏之吉

台山蘇陀峯鷄足院住

法印大僧都擬講覺深識

宝永四年秋八月伝領鷄頭院嚴覺

山門秘書記

- 一 山王事
- 一 山王本地垂迹事
- 一 山王字訓一心三觀事
- 一 十禪師事 亦名禪衣神亦名司命司録神
- 一 十禪師戒体事
- 一 天台山事
- 一 靈鷲山事
- 一 都率天事
- 一 比叡山先仏古跡事
- 一 三種山王事
- 一 龍宮城事
- 一 三塔本尊事
- 一 根本中堂事
- 一 大宮并宇悉丸縁起事
- 一 四徳ハラ密事
- 一 根本ヒサ門堂三体三像事
- 一 桓武伝教靈山聴衆事
- 一 法花二処三會事
- 一 比叡山王七重結界事
- 一 色究竟天事

以上題目廿畢

山門秘書記上下

山王事 山門秘書記上

靈応伝云天台山智願俗姓陳氏荆南人也ツ、メテ道天台ニ尋ル師ヲ衡ノ領ニ受テ四教於神僧ニ伝フ三觀於古徳ニ矣

問弘決第一卷受四教妙神僧ニ云事委細付今何義ニ云 答弘決心外之神僧心外四教云事付也

今心性神僧伝心性四教云事也以弘決伝化師ニ義也今是一家之実義也神僧ト者今山王此也大宮一宮聖真子十禪師八王子入唐求法巡礼記云諸益僧為早到本国遂果所発諸願一令郡カ都祈禱神等大隣一ヶ条施於住吉大明神矣 問慈覚大師可祈請 山王何祈住吉明神乎 答武天皇御時人也 答道照和尚

記云住吉明神沙渴羅龍王化身也尺尊在世説法之日改蛇身現明神護尺迦遺教矣何慈覚大師祈請シ玉ヘル 仏法弘宣於住吉明神也 三宝輔行記云陽昇号七星地陰降名七社矣 北斗七星ト者七仏薬師也或云六観音加明星天子云々

陰陽山王事 北斗七星事当流秘決也云々

四明安全義云当山七星降臨靈地云々 山王内証記云一陰一陽之真威被微塵界矣 靈応章云在陽名天 北斗七星在陰名七社明神地 微現イ

日吉三聖三光天子垂迹事

山王院尺 顯密内証義云

養育千象万物、地頭三聖、護持一天四海、内証利生之慈雲無、外用和光之惠風無物不扇、

日吉三聖尺迦多宝ミタ垂迹云事長意和尚私記

云慈覺大師面授口決御弟子也權化人也号、露地贈僧

正第九座主、予面聞先師曰当寺鎮守山王三聖

者大宮尺迦二宮多宝聖真子無量寿決定王如来

口伝云聖真子無量寿決定光明王タラニ經云功德藏

世界有レ仏名無量寿決定王如来今現在住彼演說

妙法云一行禪師付此經作秘尺云無量寿決定王如

来無量寿仏是也

山王御名事 嚴神靈応章云山王万物都

名一円全体不縦不横、一心三徳示レ此為レ名、此山王授

伝教大師一心三觀妙文也、慶命座主相伝山王二字訓

一心三觀是也、山王院留証ノ事也 顯密内証義云二十五有之火宅五百由

旬之陰難当位即妙不動名レ之為レ山究竟清淨自在

無碍名レ之為レ王

山王社稷神事 嚴神靈応章云初言社義

者字訓云社者市者反土地神主也弘決云社謂居々々々

土々者吐之土所生如口土地神主之吐物、即地神也々々々

國語云平、九土、故祀台為神、戴黄天履居士々地広

不可尽、敬、故対為社、次言稷義云字訓云稷子力

反季稷為穀之長、弘決云稷謂五穀物名即五

穀之神也、在口決

山王号天下善神事 顯密内証義云智者

大師引龍樹論云除諸法実相余皆名魔事、云若非

円宗護法者誰神明為天下善神

山王御宝号事 相応和尚記云当寺鎮守

山王權現者遙出、真如寂靜之都、自同和光利益之塵、

蓄遮那止觀之法器、為台嶺守護之明神、以心化之

三諦、為法号、此文相応和尚大宮、宝前講理趣般若經之

時結願表白文也御遺告云法花、心尺迦一仏之外無別

仏、真言、心大日一仏之外無余仏、忠尋精之時座主

精此義、

日吉大宮事 伊勢大神日吉大宮一体分身事

四明安全義云依顯教心、大日即為尺迦、依真言心、尺迦

即為大日、於天照宮、現大日心化明神、至日吉社、顯

尺迦垂迹、權現、彼表真言、心、此依法花宗、共心一致幽

遠之真道也、後東陽又点、佑顯教、心、大日即為尺迦、

佑真言、心、尺迦為大日、

康和五年十二月十日以近江國愛智庄被寄進当社

大嶋金剛朝廷顯三輪明神大津宮御宇初天下

坐、奉、尋、其、本、為、天照大神、分身、号、日枝、或、名、火

枝、或、申、日吉、此、即、垂迹、於、叡、岳、之、麓、弘、益、於、日下

之境御^ス矣

大宮二宮父子事 菅家清^{カシヤケキヨカネ}記云日吉地主

權現日本國地主也即天照大神父也大宮權現天照大神也分身於兩國垂迹於吾朝^ス矣

大宮本地尊星王事 顯密內証義云在天一

名尊星王在地名法宿明神^{サカサキ}矣 三宝輔行記云大宮權

現者三世諸仏之本師一切衆生之本命神也又云引文句

云非三非一為本而三而一為迹皆言語道斷心行所滅

不思議一也云明知本迹雖殊不思議一也神明依正

色心同宿四一之妙法故号法宿^{ホトケ}矣 問公家奉神服

時被^レ送僧法服俗束帶女唐絹已上三具事如何

答大宮權現僧俗女三神也此即三決淨戒鎮守故也

所謂撰淨依戒顯僧戒撰覺法戒顯俗戒^{形カ}饒益

有情戒顯女形以被送三種神服良有以者也等家

行事經云大宮神殿内高障子之下有双枕又置大

索洛塚此兩種女神具足也 行基菩薩巡禮記云

撰州温泉女鉢權現者元是三輪明神婦神也而

三輪明神密通玉津嶋女神之間彼真神者独守

瑞籬綠松梢泣溺懷 旧嫉妬終彼真神辞三

輪山本忽遷撰州松山其後三輪明神不耐恋

古之思温往温泉之羈館女神振忿怒之威動

地雷電而不遂^ス出會^ス矣

二宮天照大神母事 顯密內証義云仰迹則

天照之國母也天下皆歸大母鉢礼^ニ向^ル本亦地雨之師

主也葉草^{ハツクサ}円治^{マツカニ}諸子之衆病^ス矣

重^{ワカシ}聖真子事 東陽坊盛曾記云覺慶日

吉聖真子權現者舍利垂迹也 惠心先德聖真子

念仏表白文云明聖真子本迹者本謂アミタ也葉王

品云即往安樂世界阿弥陀仏^ス矣

弘義經云見諸法美相名為念仏^ス矣故疏記云正明本迹

體性々々即実相々々非遠誰論其本実相非遠誰論

其迹実相不思議故名^ル王云明知真諦如海水一俗迹

似波浪事理円融水波一体顯可顯本皆成四一故

言聖真子也 次觀心聖真子者止觀三轉色成法身

々々常王轉識想成般^ニ即淨轉受行^ニ成拜現^ニ々々

即我今蒙明教神德禁色心自^レ是無作三德^{々々}各

開三德三々九品淨土也三德各具四德則十二光仏也十

二光仏各具四德則四十八願主也然而衆生六根各具

八倒亦成二六八四十八願倒一痛哉悲哉為^レ具^ニ是仏是

心之六根妄^ニ謂^ニ五燒五痛之六道幸哉喜哉取即身

即聖也安樂^ニ歸^ル了 是心是仏之ミタ^ニ所以尋^ニ梵音於

月氏アミタ之三字念^ニ三德於日域名聖真子也一社

又云止觀云返論三德一々常樂我淨也大經云諸仏所師^ニ所

謂也以法常故諸仏名常^ス矣 前唐院尺 神祇鑑典云當寺鎮守

法宿權現傍有「聖真子」地神第二重正哉吾勝々

命突 在口伝ク

八王子事 神祇宣命云言八王子者天照大神

所生也五男三女芳八王子也父祖額干上常經千六

宗自久代天息來歸率領八十万神八子曰天降

故曰八王子突 当流最秘決経上古不及二人相手事也

客人事 白山 慶命大僧正記云現神力於普

門之青龍降葉珠之雨飼忍草於雪山之白牛施醍醐

之味所以名之曰妙理權現今護一乘之仏法遊中道之

山下列七社之神明得賓客之子故名之曰客人大

明神突

蘇悉為五 二性如來二性 本道復衣
十 禪 師事 亦名胞衣神亦名司命
司録神突 空 中

十禪師秘密供養式文云十禪師明神者又名壽福神此

則一切衆生胞衣壽福神也自胎内五輪之无始至命尽

一念之最後一切衆生悉莫不被彼神護念突 明善阿

闍梨蘇悉地記云頭日吉十禪師一結衆生順逆之縁

現司命司録神一考衆生罪福之果突 十禪師者十如

是也十者 滿教義十界三千円滿故為十禪 心也故如也是則

心惡修善空諦也師者 智也是即虚空不動戒定恵円滿義也亦

是中道也三学円滿為十禪師故為法花経体摩訶止

觀体也故唱南ム十禪師此本迹一門之妙行即身成仏

之大行也

問十如是者 法也十禪師者 神也何法花神乎 答法間人一

一体為隨縁或顯法或顯人也 例如光明遍照十方世界念

仏衆生撰取不捨突 々々々々四字顯熊野子結王子早

玉王子也一社持二 兩王子一 々々々々十一面藥師云也ク

十禪師本地異說事或云弥六或云不動本誓

護国十禪師云事四明持金義云引六所句本願経文

云仏告阿難六以四事法不取正覺何等為四二淨

国土二護国土三淨一切四護一切此為四事六本地

仏時以此四事不取正覺突 為細機於三會曉二 和

光於四明一 號十禪師良有以突 十禪師秘密供養

文十禪師權現者 一心三觀鎮守三尊不現明神也突

口伝云三尊者 不動地藏六也 慈惠大師即弟子 大日院十禪師

覺文觀念記云三尊不現十禪師者三諦法空明神也不

動地藏六三尊也所謂不動空諦地藏仮 諦六中

諦也如レ 次空仮 中三諦法報応三身也突 以三諦為三尊

有深秘文当流大事也突 三昧和尚自觀経文云十禪

師本地不動云 十禪師慈惠大師一体云事 誓願或文云舜口 坊

和尚化山王 大師御本地具以言不動明王真言法花

兩輩密教顯宗行者朝々不忘而思惟夜々不レ 懈而

觀察突

十禪師宝号事 惠心先德御記云十禪師

三德究竟之明神三身圓滿之冥道也十_下者法身也実相云諸法々々云十如々々云十界々々云身土故十_下即実相

法身理也禪 到後學之義禪定相応智即報身也報身者翻淨滿淨滿_下者即示口品滿義也故大福翻棄捨惡

毘星之福云功德寿林_下師_下給現教道義也即応也故名

三德秘藏十禪師也

十禪師神殿向辰巳方事 当流秘決故非

流布為令惡神達対治故令辰巳方_{玉ヲ}也

山家要決云大聖勸喜天巖神_下社頭荒神也付_下

此文習此方角不難爾秘決也垂迹十禪師以之為秘事也

十禪師和光同塵終可唱龍花樹下成道云事 三宝

輔行記引ミ六上生経云若有欲礼ミ六仏告除却百億劫生死之罪乃至來世龍花樹下亦得見仏_矣 龍

花樹下成道事非口決引以_レ以_レ 相对法則集引

ミ六來將経文云ミ六勒取道為仏於龍花樹下_二座_矣

十禪師社頭名樹下具可云龍花樹下_二秘決龍花樹

下_下菩提樹下各別也可習_矣

又当山金剛座事 当流秘決也 一山大事也

十禪師八相成道金剛座在当山也從久遠劫在

当山上也高祖大師點定秘所也化縁人不聞及

名字也私云還算云双輪檀地此也私云戒旦院歎授一取水不失金剛宝戒_二頭云也_レ

樹下和光同塵事_二度其事觀_レ報_レ神_レ體_レ靈_レ應_レ文_レ也_レ付_レ此託宣有_二

異說千觀内供奉記云件文地主權現靈託_矣山家要決

集云此文山王託宣_矣 口伝云山王_下七社中十禪師御

託宣習也

山王内証記云二度其事觀已畢者引位此不一皆為二尺

文述成仏靈託一文也中間当々成道更迎去其度数

拳_二多数_一皆名為_レ二_矣 相伝法則集同之相对法則

集云西天菩提樹下_レ応化_レ為一度_一東土龍花樹_レ垂迹_レ為二度_一可秘之

十禪師龍花樹成道之時金剛座在当山事有令

喻分喻金剛座也不成道有_レ事理成道也令喻金

剛座_下者西域記八云菩提樹下恒心有金剛座昔賢劫

初成道与大地一位記撰三千大千世界之中下極金輪

上侵成道与地際一金剛所成也因是余步賢劫千仏

座之入金剛定故曰金剛座焉_矣俱舍論十一云唯此

州中有金剛座上窮地際下撰金輪一切菩薩將非

正覺皆座此座上在金剛喻定_矣 都率先德引ミ

六來將経文云ミ六取道為仏持於龍花樹座_一矣所言

龍花樹下者吾十禪師神壇也_矣於成道事理成道

和光同塵結縁之後成道正置事在口伝

ミ六成道非龍花樹下事 慈恩引ミ六成道仏經文

尺云ミ六成道尔時ミ六於花林園二所言花林園 諸仏

正覺菩提樹下也

龍花樹事 渡海伝云龍花樹 阿那婆達多

龍王自レ口生出故云龍花樹 金剛為枝葉

菩提樹事 西域記第八云前正覺山西南行十四

五至菩提樹周垣置 軌崇峻 固軍西長南北狭周五

百余步奇樹名花林蔭 棲 影 細砂異草弥漫縁

堤正心東闢对ニ尼連禪師ニ南行樓大花地ニ西 珽險

固此心通大伽監ニ内地屈迹相隣池法本内伝云西天菩提

樹有一百八枝条ニ有八万四千連葉 前唐院御尺桑

此惠玄久遠菩提樹ミ夕称名名縁来 我朝桑云菩提

樹ニ云事此尺分明也 葉上僧正唐決記云吾国桑惠玄菩提樹

也日本国名扶桑朝ニ事付此文ニ唱十禪師八相成道ニ事

有矣 十禪師二門相即集云地藏者地謂一実智感謂如

来秘要之藏也文句云一切秘藏者遍一切処ニ皆是実相

此結ニ妙体ニ也此位吾等久遠以来常在ニ此藏ニ未ス曾

暫示法花妙行

觀心十禪師事故葉草喻品云貴賤上下持戒

毀戒乃至侷力所受住於諸地誠是開会美相之一地

如来秘要之大藏也十謂彼諸名之為十二禪謂空

諦名之為禪一師謂中道名之為師故名十禪師

十禪師垂迹事 神祇宣命云日吉十禪師者天

照大神皇殊 正哉吾勝々速日天忍穗耳尊子天津彦

々火瓊々杵尊号白皇孫命ニ活護宝 祚之隆退去倉

生災之國常立尊天嗣 次下 十禪 神故 曰十禪

神一亦名十禪師ニ々々者此宝号通称也

三無差別十禪師事当流有深秘口決ニ相對法

則集云知ニ一切法ニ知一切衆生ニ非衆生ニ此非ニ遠ニ離於文字

菩提ニ即心々即衆生々々即此十禪師 山家尺云三世常

住上々々々云故法性藏ニ無明ニ而上三世常住下々々々

云故無明藏ニ法性ニ而下丹丘塚皆備如来之真色

万瀬百泉悉唱妙法之梵音

三聖一師廿卷記錄事 前唐院 五卷

三宝住持集上下二卷頭密内証義 十三卷 三宝輔行記

大明安全義 十卷 御遺告一卷 以上師 以上名三聖二師

廿卷記錄一流相伝之外不及散在流布也

日本事 寂光上事 尺迦而二名ルサナ事

梵網經云我今ルサナ頭密内証義云引尺迦ムニ名ヒルサナ

遍一切処是仏住処名常寂光 伽耶即寂光也日本

即一塵法界 事寂光丈六応身周遍 法界ニ事法身

私云周遍者横遍十方歟 将豎徹法性源底歟

十禪師戒体事 先付垂迹名三言之者十者

十界無闕滅二円満義也円々頓也十界速疾成仏義也禪ト止々々者

遮惡持善義也撰淨戒撰善法而戒也引導一切衆生即饒益

有情戒也サレハ三決淨戒之儀別利益衆生義也 次付

本地二尺云者地藏也不動也ミ六也地藏ト梵網經云一切仏

心藏地藏無量行藏因果性本位藏如々一切仏觀無

量一切藏 一心戒下云法花実相也名為藏一心喻地藏

如地能持万持万物名為地藏 此心即戒々具足惠藏定

藏三德名為戒藏 明曠疏同 次不動義記云修不動

即入戒心 次ミ六ト不命内故名慈氏云此饒益

有情戒也

問云三菩薩為十禪師本地二事同体異名歟 義云本門意

諸仏菩薩皆尺迦分身也 一体系勿論也先慈氏利衆生

戒也地藏雖有利衆生二地藏菩薩依也故云撰善法戒也垂

迹時禪止惡修善義也不動 九界皆無動乱二而不動

仏學者ミ六地藏不動印真言種子皆具其義如密

宗同戒法何用真言義也顯戒論云稽首十方常寂

光常住内証三身仏実報方便同居十大悲示現大

日尊 問三聖共垂迹歟 義云戒法假諦心身也故戒

体山王假諦事三身也本門意諸仏皆尺迦分身也

問者三聖為三身如何義乎 東方藥師法身西方

アミタ如觀察智故報身大宮尺迦隨縁真如心身也中

堂藥師東方始 故心身也西塔尺迦法身也經云尺迦

ムニ名ヒルサナ遍一切処其仏住処名常寂光ヒルサナハ

尺迦異名也横川觀音報身也法門主 故智仏也凡不

反隨縁故名為心仏 一心上所意三身取意何云無相遍

也伝教此三仏即一身尺玉ヘリ尺云歸命摩訶ヒルサナ亦名

尺迦ムニ妙法教主像法轉時利益衆生称号藥師瑠璃

光如来 智証大師尺云三世常住大日如来亦名尺迦

法花教主憶念弘演像法轉時以大方便称名藥師

瑠璃光仏

第七三宮内証已心事 賞尋僧止記云阿

闍梨賞尋永承末年泰被繪命一保護東官 彼

時竊取願文東官開護天之聖運為宝祚長久

者崇虚空藏靈社殊儼法樂莊嚴云其後誓護有

徵祈願如思治曆元年十月八日任權律師正久三年

四月補法性寺座主同十月廿九日叙法印同四年二月

為果古願於彼社宝前建立五間僧會為彼字會

所一七ヶ月備神勝於晨民講妙文於朝夕當第六

日山王入深夜夢示曰我為衆生之父応拔其苦

難与無量無辺仏智恵示衆徒此等也何不列同

席三別殿哉云盡夢覺畢感涙滿袂同三

日拱神殿於僧舍同四月十七日中子尅

山王三國法花宗守護神事 相對法則集云伝

聞日吉山王者靈山地主神即金毘羅神也大唐天台山

守護神吾朝天台宗守護神也為令弘通一乘教迹二月氏

晨旦日域三朝為一乘妙法鎮守一又云於後五百才為守護

一乘教法示現威力最大明神七密灌頂之時奉勸請

山王三頭密雖異一味道一味也三國頭密教法備佐山王護

持一云未來一也矣

問山王三國法花守護七社中何乎答天台當流秘決

也西方院和尚記云伝聞日吉山王者靈山地主明神金

ヒラ神也乃至三朝之間為法花守護神矣五大院尺云

靈山法花守護神金ヒラ神者十二神宮七密也矣

一行藥師法通略行要記云宮毘羅大明神地主神弥

六矣若佐此尺一七七社中以二十禪師為三國法花守護

神也 五大院尺云宮毘羅本地尺迦々若佐此尺者以大

宮二可名三國法花宗守護神一也

山王本地垂迹形像位階事 裏書俗体或天神中王神

大宮本地尺迦如来垂迹俗形号大比叡山王亦名法宿

大菩薩近來僧ナリ形天安三年正月廿七日奉授正二位

慈覺大師治山之時也元慶四年五月十九日奉授正一

位一智証大師治山之時也二宮本地葉師如来也垂迹

俗形也号小比叡山王亦名花台菩薩亦名地主權現
天安三年正月廿七日從五位上元慶四年五月十九日

從四位上承安二年三月九日正一位壽永二年十月九

日正一位 聖真子宮本地無量壽王如来俗形承安

二年五月二日正二位天武天皇元年被送宇佐宮宣下

同時云近承安二年云八王子宮本地千手觀音俗形

或云八人承安二年三月從二位同五月二日宣下壽永

二年十月九日正二位 客人宮本地十一面觀音也女体

天照大神御母白山靈神承安二年三月日從二位同

五月二日宣下壽永二年十月九日正二位 十禪師宮

本地地藏或弥勒等垂迹僧形也承安二年三月日從

二位同五月二日宣下壽永二年十月九日正二位 三宮

本地普賢垂迹女体円頓実相已同七密妙体也承安

二年三月日從二位同五月二日宣下諏訪大明神或

玉津嶋明神云 上七位畢

中七社
下八王子本地虚空藏俗体承安二年五月二日十六王子也

從五位下王子宮本地文殊垂迹童子形無位

大師事本地毘沙門垂迹俗体初行從五位下次正五位

下次從三位次正三位承安六年五月宣下 早尾本

地不動垂迹俗形老翁從五位下上位後白河院奉崇

之時社宣下承安二年五月二日 牛御子本地大威

德垂迹牛形初從五位下次正五位下承安二年五月

二日宣下 新行事本地吉祥天女俗形初五位下

次五位上承安二年五月二日宣下 聖女本地如意輪
無位稱荷大明神契慈覺大師垂迹中七社畢

下七社

小禪師本地六或龍樹等垂迹僧形 氣比本地金剛界

大日俗体山未本地大日俗体或摩利支天宇志丸是也岩

瀧社本地弁才天竹生嶋明神也女体劍宮本地不動

童子形白山王子也 大宮電殿胎藏界大日藥師垂迹

傳教大師垂迹伊勢別宮社二宮電殿觀音或同光

月光此円宗講或云日光菩薩山長神迦羅或勢多迦

下七社畢

一塔本尊三聖惣社稱實親成說云下七社者未有定說中七社
已下人々任雅意各稱之

一六十四所 小社小宮 六十四所 一劍宮 不動尊
客人左脇

六十四所中无社名小宮有社称小社也又次第就三七社

遍更又連之也

大宮小宮 東竹林佳吉 契傳教大師護仏法高貴德

王菩薩虚空藏異名或明星天子也 住吉者日本地神五代

主也日本大將軍夷征伐七度也初為五神件一百一十邪

々隆不信仏法傳教大師二月十五月初詣住吉社檀仁

王経講讚其後誓為仏法大壇那広令流布遺教経

西竹林若宮十一面同契傳教大師護仏法或云八

幡宮尺迦初鎮西大隅国冠山岸壽以流布其後

豊前国御体山垂迹是八幡下殿号八幡也昔在

靈山説於妙法花経今於正宮中故号八幡此文者
山辺有巖彼巖破三分其中金孝也聖皇子小社

氏永聖女左脇
後移西初 王師子氏永 八王子宮或説列石七郎八郎牛馬力盛石

來若宮聖宮 千歳御殿左脇
從此至南 大巖北以下五所万歳御子八
御不替

丈夫人巖下以下四社從北至南 若宮勢至大巖南七郎八郎

同社三宮左脇失取三宮左脇客人小社或説云客人六所

王子者一佐羅本多門天二佐羅本三宮
如意輪 三佐買至本
處等藏 四佐

ラ禪師本地藏 五佐ラ禪師 劍宮左不動 六佐ラ禪師

兎宮 小白山御殿左脇觀音以下三社從北至南
本地尺迦

若宮別山大行事聖觀音 劍客不動
客人王子 大已貴宮訖陀

十禪師小社

惡王子變染王
門樓頭 内王子地藏
並社云云 夷エヒス不動或ハ觀音
西成南並北狹 三郎思

沙門或海龍王子方良名處勢神 若宮三町數社巖下 西宮貴賢

巖龍夷社 三郎殿神功皇后御子或ハ武内大臣男云云 慈覺大師之

時帰座坂下 三宮小社 寵三宮左脇八王子与矢取同社

下八王子小社

矢取御殿左脇 早鳥若宮称高御子
已上五社從北至南

王子小社 牛反天王藥師 帳御子富御子 若宮同社

与富等子 王御子八御子 夷尾小社 私大政左脇已上五社從北
至南

山長勢多迦領子 新社吉備津宮地藏 夷三郎殿同社 若

宮一章 以上三社自南至北 富永ミ六若宮 惣社已上七社自西至

東一冠者改兒御子 伊立権現八幡若宮稱荷桶村貴

布祿不勳 黑尾上江口北至南 巖島千歲初カ

世直石動宮 明星天子山長並社 能登國神也

牛御子小社泉氣任アリ 牛御子下塔本社夷三郎殿大

行事 小宮子安宮島南大行也 江比主三郎殿一字二間

兩社名号一同也 神宮寺 妙見神殿十一面寺堂カ

山王字訓一心三觀事

問山王則一心三觀方如何 答山下者以高秀為德 頭本覺太

高王上者以治民為德 頭九界婦上界 此即本迹二門

之在纒出德事理実相也所謂山字横一点頭十方仏

土中唯有一乘法義 豎三点頭仏於三世等有三身義

也豎三点之下有横一点者三教權法婦一乘実教三教

文顯入実一地所生一多所調義 横一点之上有豎三点

者本地三身居一身三世一念三世化道普常在靈山義也

中央点長迹門意中道縁空仮義也左右点短空仮不

及中道義也本門意中央点長頭俗諦勝空仮云也或

五百塵点劫心体不滅勝法報義也 次王字豎一点

貫横三点 頭三權即一実亦一朝化道豎満定義 横

三点頭横三身 因遍法界也以豎一点 消横三点者心体

雖常住一朝也化道已歸非滅現滅之三德秘藏理義也

横三点消豎一点者三身共雖常住 心体婦理時三身共

婦理故也豎一点雖消横三点々々鮮明 非一身而一身

義也如此横豎無碍自在 頭不縦不横三身也愛大宮權

現合慶命座主我名字此一心三觀也所謂山字以横一点

消豎三点 頭一心三觀非一非縦也マ字以豎一点消横

三点 頭三觀一心非三非横也故唱南無山王是非三非一不縦不

横之一心三觀々々一心ス行也此外別無止觀妙行法花ス行也大

宮權現者尋本地久遠実成尺迦從本垂迹明神也

四教尺迦四教明神宛然也

問中堂藥師大宮尺迦何不云御身乎 答云迹門意高

峯住中堂藥師妙覺法身坂本大宮從法身所垂迹

心身也本門意住高峯藥師住迹頭本心身也住

下地權現住本頭本心身也此心身僧宝也迹門理

円本門事円云ハ 常人去事円ト 心身也三千事法花心

身也事円ト 理円ト 即事サト頭 非也理円ト 中道也事

円仮諦也心性不動假是中名其誠三千假是空称雖

亡而存假是假号矣 常人自心法念々生滅スレトモ 前念後念

次第移行空云也 雖亡生 假云也此心法仮諦謂

付其假是三諦也而當流本門不及隨縁故名為心云

方法一心取付心法所意仮諦是三諦也心非不動者仮諦

事法常住頭方中ト云也 松柳常住仮色盤石金

剛 事法ト云也 以亡滅ト云也 世間事滅此名空 次而存ト云

三千草木中春生冬滅方仮諦也俗諦常住不

生不滅事能々可去事也三諦共常住也流々義雖不同也

所去之諦理名法宝 理智不二名僧宝 故経云仏名

覺即此智法名不覺即此理也僧名和合理智和合

雖三而一故名一体三宝矣述佛法者不及真如理無動轉
名中道一本門心性不動假是中名上心性不動方事頭

立中名也非指心性名也本門三諦皆付事法所是也
一体三宝尺付本門立矣故佛法皆覺尺以亡滅

三千假立空稱俗諦三千法春生秋滅本門空
云也此名法寶也サレハ一体三宝尺所去之諸理名法寶
即此理尺也所詮中道理所緣境空也能緣智

指色法三千境生滅云空也心万法一心法草木生滅妙
文一心生滅云心頭也心性不動假是中各云假心性

假取心上所是三諦可取意也 次離亡而存者假諦也
僧寶也具空假二諦此事円也分別迹門色心各別也本

門万法一体 色香中道也彼云三千互遍亦尔此心也
取本門意迹門下位本門上位也迹門上位本門下位也故

迹門理即僧寶本門妙覺也付心身有二位住迹頭
本心身妙覺心身住本頭本心身僧寶心身也付

住本頭本亦有二一觀行即僧寶心身也一三千性相當
体マレナリ隨緣真如心身也迹門妙覺吉物也住迹方

妙覺心身本門觀行即位一念信給本門立行之着
尺故本門觀行即住本頭本十界已成仏一転

動出仏迹門修行仏嫌木キサミ作タル仏一転修

行住本頭本仏也木々草々其当体ハタラカス住本

頭本仏也

漢朝天台山之事 白居易云天者智也空也台

者事也假也山 中道也理也実相也天台山如次玄義文句止觀
等三大部也三大部即三身說也云事山家尺有如此取意

故天台大師尺迦多宝一体云事無頻者歎サレハ天台大師
和讃胡僧再現告終ニケリト云法花会上記誦千

界菩薩涌出頭尺迦遠本全同事也命終者本地
報思境智也止觀所々無始色心本是理性妙境妙智此

意也天台山一念三千々々一念意也天字上一点一実中
道九戒真如妙理也下大字空也智也是即理智契合

一念也台者三諦三千也山三諦一体意也法則三千一念意
也故天台山三字円教不縱不横三諦三身一諦也又文

常寂光土也 師云此法門悉深秘藏法門也雖有二
宿習非冥衆加護不可聞事也若聞此法門給

即深信人成仏都不遲乃至螻蟻蚊虻迄如レ此是紅葉
箱秘藏義也

靈鷲山事 靈寂也理也止也鷲光也智也觀也

如次止觀二法也山 中道也実相也經云定惠力莊嚴以此
度衆生矣定惠者靈鷲二字也所莊嚴山也山円頓

義不動不通義也 尋云以鷲字為智事如何
答鷲鳥中王也今以レ壽為法花経平等大会一切

諸経王也故常在靈鷲山常寂光土義也天台寂

光土矣妙樂即屬自受用土矣故常在靈鷲山

者身土不二土也然則所居土三諦相即妙土也能居

仏三身即一法身也又法中論三仏所說法一乘妙理也

法有不及隨緣二意故土亦有事理二土也寂光義

法上事非別物一只此法門也能々可案持云事也実者事

也伝教大師御臨終之時自慈覺大師云一家天台大事

只在寂光義法二所謂靈鷲山天台山兩山建立能々

可尋習事也而一家學者不去寂光土義法者可闡生死

山家要決云詣祈仁詞立撥煩惱之草原如本矣三寶住持

集云於当山此辺建立淨菩提心無垢光摩尼輪檀

者尺迦久仏転法輪処也矣

鎮護国界章云靈山一会儼來未散矣或人云此尺弘

法大師御尺也秘文也山家尺云法性月晴現宝

莊嚴粧禪定水澄淨普賢滿月之影云淨土

儀式間 神告云山応靈山処是此金剛

來僧龍衣我朝來際ヲ矣 惠心尺云吾山一山而分三

塔以三塔一名一山々々則一心戒藏也三塔亦三壽事戒

也九院者三々九壽之戒場也此文惠心先德於千禪師

社壇為保胤入道更三壽淨戒之時也説戒文也三

々九壽戒事在口伝也 東塔北谷虚空藏尾事

鎮護国家章云靈山一会儼前未散北斗七星如

在影向矣

在影向矣

山門秘書記上卷畢

(二丁空白)

山門秘書記下

一 中堂闕伽阿耨達池余流之事

光定和尙 俊伝法記東時嶮嶺明星降臨之靈地西湛清池

阿耨達池之余流也靈山一会儼前未散北斗七星

如在影向矣 一乘法門仁忠所記高祖大師一生記文同之

西域第一瞻部州之中池者阿那波答多池也唐曰无

熱池旧曰阿耨達池在香山之南大雪山之北周八百

里金銀瑠璃頗梨呢飾其岸焉金弥漫清

婆鏡大地菩薩以願力故化為龍王於中讚宅出清

冷水冷澄部州矣

一 伝教大師初登山值遇五百賢聖事

高祖一生記云延曆四年乙七月中旬大師制攀登叡岳

転稽聖跡巡礼生年遂同五年三月届仙人遊化之

陬又遇五百賢聖得聞妙行之深理同記云仙人

魔大師曰我等所住傍有例靈木即梅檀蔭也

略 一 伝教大師初登山事

イ本ニハ沙利精草山家御尺ト見リ 歲次夷則朔十七日下

三三住持集上云延曆四年乙亥夷則朔十七日

忽神官寺院始登叡山高峯乃至崇巒崎嶇峒壁

洞達踏雲抱風嶺千仞谿一陵雨咽霧一屈万丈嶺雷
電声震天大晦眼魅鬚虎虺蛇儀響動神肩

虬寸軀疲一姓隰十八日披荒捧蒙籠進哨罅之崢嶸
三峯奇峻如一鑿三結九嶂失擬似基九天自延曆四
年七月至同五年二月都以涉下崗峯巖嶽焉墜下

巖窟谿澗周曆覽山廓无闕窮山海之環富
尽人神之壯麗皆莫不玄聖之遊化靈山之窟宅
者也乃至此巒林行一靈童逢最澄而自言童子

何人童子答曰我是天地經緯靈童衆生本命
同生神也我有三名一名同生天一切衆生同天故
二名遊行神衆生本命遊行神故三名十禪師十

方衆生与禪悦食当来結縁能化師故則唱
一偈言一称名号者功德如虚空我誓无尽願所願

悉口滿最澄恭敬白言歸命頂礼十禪師此土
清淨寂光土行住坐臥四威儀断除玉一一切煩惱

焰一靈神告曰樹下和光同塵事二渡其事既已畢今
度不詣我至前何知生死尽不尽明賢阿闍梨夢

文点当流秘决略之東躡秀尊一惶一崔一磧
一化人現身長丈余項佩金光化人問言未断惑

者從我所來宿善不殖来此難得一伝教大師答曰
言我昔靈山法花聽入重玄門倒修凡事最澄問

白言化人何權者畢二山王事吾此山王日域真神

陰陽不測造化无為遊心法性垂迹実道弘誓
聖仏護國為心化人上虚空現神反神問曰汝有

何志願乎最澄答白言三界无安四生不樂願闢此
峯同建伽藍誓護國家利益有情威神加被
大願斯遂神告曰山応靈山処此金剛来僧聽衆

吾朝来際最澄問白言冥神本地如何得知之乎
神答曰今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子
此時大地震動天ヨリ雨妙花

二仏同座相好円満宣説妙法无量菩薩声聞縁覺
天竜八部圍遶聴法靈山一会於此儼然之

住山輩自然得滅罪生善事
淨利結果章云无始已来縱造十惡五逆謗三乘法
作一闍提壞僧伽藍焚燒經藏損傷合識飲酒食

肉任欲邪淫无慈愍心諸罪人等謬踊斯地誘踏
斯峯皆悉悟道自然成仏

仁王長講云我等至心発弘誓仏子某申及同法此
等東西南北院所宿所住及往来心蕤沙弥近事衆

乃至童子及郡生伽藍護法神鬼等蚊虻蠅蟻
等多門薰習念々僧開悟一垂真妙法如説修行不

退転百仏世界成仏道百菩薩像恒圍遶刹那々々
証分真究竟同証妙覺位矣

三寶輔行記云攀斯峯永離三惡之嶮坑容斯洞者
速得西德之直道

住山離山得失事

四明安全義云発心々住者信^{マニニコノ} 情解^{トキ}実乘^{マヨイ}之惑^ト不信離

散者^{イソトナリマヨコ}焉^ヲ 為^シ吟^ニ苦^ク輪^ノ之^ヲ 衢^ニ 矣^ニ 一本覺大師三寶甫行記見タリ

御遺生^{ミツク}言^フ御廟尺云十方^{ミチノ}仏土中^ノ唯^ニ有一^ト乘^ヲ法^ヲ始^メ鷲^ノ峯^ニ 矣^ニ

中天台終我山^{ミヤ}雖^モ言^フ三^ノ伝^ノ之^ヲ末^ニ山^ニ不^レ異^ス三^ノ反^ノ之^ヲ昔^ノ地^ニ 矣^ニ

淨利結果章云出離之道不求斯山^ニ更^レ求^ル何^レ処^ヲ得^ル道

因^テ不^レ殖^ス斯^ノ山^ニ正^シ殖^ス何^レ処^ヲ 目^ニ出^テ文^ノ之^ヲ通^シ告^スニ^モ見^タリ

王城与山門同体異名事

顯密内証義云本有^ル四^ノ德^ヲ為^シ城^ニ修^メ德^ヲ四^ノ德^ヲ為^シ山^ニ此^ノ城

与^シ山^ニ体^ニ相^シ平^シ等^シ遍^シ一^ニ切^レ処^ニ 矣^ニ

此文当流秘決一心^ニ觀^テ建^テ戒^テ日^ノ院^ニ之^ト時^ニ此文^ノ同^シ口^ノ決^ス事^{アリ}

当山王城鬼門事

三宝住持集云当山者王城東北^{トス}画像^{トス}而^{シテ}為^シ良^ク氣^{トス}以^テ東

以^テ北^{トス} 此^ノ已^ニ為^シ鬼^ノ門^{トス}之^ヲ方^{トス} 四^ノ明^ノ安^ク全^ク義^{トス}云^フ帝^ノ都^ノ之^ヲ良^ク鬼

門^ノ之^ヲ開^ク也^{トス}鬼^ノ門^ノ邪^ノ氣^{トス}通^ル入^ル之^ヲ徑^{トス}路^{トス}波^{トス}旬^{トス}往^テ反^テ之^ヲ凶^{トス}方

之^ヲ故^{トス}根^{トス}本^{トス}大^ノ師^{トス}始^メ經^テ魘^{トス}魅^{トス}之^ヲ塗^{トス}率^{トス}踐^{トス}无^ク人^ノ之^ヲ境^{トス}點^{トス}邪

鬼^ノ夷^{トス}巖^{トス}磊^{トス}禁^テ同^シ其^ノ開^ク陰^{トス}邪^{トス}不^レ通^ル入^ル 矣^ニ

以心性二字建立当山事

御廟秘伝云当山^{トス}東^{トス}西^{トス}各^ノ有^ル内^{トス}外^{トス}二^ノ門^{トス} 矣^ニ

内額二門事

淨利結果章云西^{トス}開^ク不^レ及^シ隨^フ縁^{トス}之^ヲ而^{シテ}一^ノ門^{トス}東^{トス}建^テ隨^フ縁^{トス}

不^レ反^シ之^ヲ不^レ二^ノ門^{トス} 矣^ニ 金^ノ禪^ノ論^ノ隨^フ縁^{トス}不^レ及^シ故^{トス}不^レ及^シ隨^フ縁^{トス}故^{トス}不^レ及^シ此^ノ義^{トス}也

問^フ曰^ク而^{シテ}不^レ二^ノ鳥^{トス}居^ル何^レ処^ヲ耶^{トス} 答^フ口^ノ決^ス在^リ秘^ノ伝^{トス}也

外額二門事

御廟秘伝云東^{トス}坂^{トス}本^{トス}西^{トス}梵^{トス}尺^{トス}等^{トス}東^{トス}帝^{トス}尺^{トス}寺^{トス}梵^{トス}尺^{トス}寺^{トス}在^リ

志^ノ賀^ノ宿^{トス}上^{トス}官^{トス}地^{トス}有^ル碣^{トス}石^{トス}帝^{トス}尺^{トス}寺^{トス}東^{トス}坂^{トス}本^{トス}登^テ横^テ川^{トス}路^{トス}左

山^{トス}麓^{トス}当^レ時^{トス}通^ル世^{トス}人^{トス}房^{トス}舍^{トス}我^ノ山^{トス}号^ス山^{トス}門^{トス}事^{トス}此^ノ義^{トス}也

三千衆徒事 羅什門人三千人也

三宝住持集云当知^ル此^ノ心^{トス}從^テ本^{トス}已^ニ來^ニ如^シ來^ニ藏^テ理^{トス}法^{トス}尔

具^ス足^ル百^ノ界^{トス}千^ノ如^シ自^レ他^{トス}依^テ正^{トス}唯^ニ一^{トス}念^{トス}心^{トス}性^{トス}我^ノ心^{トス}无^ク体^{トス}无^ク垢

清^ク淨^{トス}不^レ為^シ煩^{トス}惱^{トス}惡^{トス}業^{トス}染^テ汚^ス一^ノ念^{トス}三^ノ千^{トス}即^シ三^ノ諦^{トス}即^シ一^{トス}而

三^ノ即^シ三^ノ而^シ一^{トス} 矣^ニ

伴侶修行章

内^ニ具^ス六^ノ万^ノ細^ノ行^{トス}外^ニ持^テ三^ノ千

威^ノ儀^{トス}故^{トス}号^ス三^ノ千^ノ衆^{トス}徒^{トス} 矣^ニ 当^レ流^ル佐^テ此^ノ文^{トス}一^ノ念^{トス}三^ノ千^{トス}可^ク名^ス三^ノ千

衆^{トス}徒^{トス}云^フハ^リ 学^生本^{トス}式^{トス}広^ク宝^{トス}為^シ房^{トス}作^業為^シ座^{トス}転^テ生^テ重^テ法

令^テ久^ク住^シ守^テ護^テ國^{トス}家^{トス} 矣^ニ 禪^ノ広^ク式^{トス}云^フ円^{トス}行^{トス}為^シ柱^{トス}松^{トス}枝^{トス}擬^シ隔^シ有^ル一

三種山王事 山王院御日記云熊野権現震

日^ノ国^{トス}天^{トス}台^{トス}寺^{トス}守^テ護^テ神^{トス}本^{トス}地^{トス}尺^{トス}迦^{トス}如^{トス}來^ニ垂^テ迹^{トス}俗^{トス}形^{トス}也

神^ノ祇^{トス}鑑^{トス}典^{トス}云^フ古^{トス}漠^{トス}涼^{トス}滄^{トス}海^{トス}有^ル三^ノ輪^{トス}金^{トス}光^{トス}一^ノ浮^{トス}浪^{トス}

焉^{トス}天^{トス}地^{トス}開^ク關^{トス}陰^{トス}陽^{トス}割^テ判^テ三^ノ輪^{トス}金^{トス}光^{トス}同^シ三^ノ光^{トス}神^{トス} 聖^{トス}化^{トス}生^{トス}

其^ノ中^ニ一^ノ自^レ尔^{トス}以^テ還^テ吾^ノ日^ノ本^{トス}國^{トス}雖^モ言^フ隔^シ中^{トス}天^{トス}之^ヲ聖^{トス}跡^{トス}一^ノ離^{トス}出^{トス}西

漢^{トス}之^ヲ靈^{トス}域^{トス}当^レ三^ノ南^{トス}浮^{トス}之^ヲ刃^{トス}刀^{トス}為^シ東^{トス}隅^{トス}之^ヲ神^{トス}國^{トス} 矣^ニ 此^ノ名^{トス}迹^{トス}門

三^ノ輪^{トス}山^{トス}王^{トス}也^{トス}日^ノ本^{トス}國^{トス}名^{トス}神^{トス}國^{トス}文^{トス}也^{トス}能^ク々^ク有^ル口^ノ伝^{トス}嚴^{トス}神^{トス}靈^{トス}靈^{トス}庇^{トス}

章見少贊字 内証位集云前院当寺

法主山王三聖出世化道者不応帝莊一宵之靈告

无即王祭万古之旨歸自出三德秘藏之妙理以

利三毒迷倒之衆生三業相應之故名清淨三輪山

王此本門三輪名山王也 同文云我出入息從本已來々

皆是阿字是无量壽諸仏三身我即一念理体之

上更不求外心生息之心即仏陀氣即仏法氣

即三内々々三葉々々三輪此法周遍利益有情

觀心无作名山王也 此文觀心無作名山王也

頭密内証義云二十五有之火宅五百由旬之險難当位

即妙不動名之為山究竟清淨自在无碍名之為王

当流之為山王也 又云凡七社明神者唯円七覺也三

千学侶者衆生之心数也故尺化云則一念心中道冷

然故知心是妙也妙即三千々々即法也

断塩法事 袈裟梨童子成就法儀云

欲成就此法断五辛亦不食塩不食油然語於一

淨処三時澡履衣結印 袈裟梨童子法

能滅世間一切諸毒所求无不遂心

田頼大戒留山門事 伝述一心戒中答云夫

以法身如来有美相戒等覺之人不知戒質十地之人

非有珠之大師求之未入唐前披一切経□和尚經

覽於叡岳進我当経檢於東嶺入唐日登天台

智者山門得仏戒文三種文來於山家戒体留山

迹矣

龍宮城事 問一切仏法遍宮納龍宮有河

故了 答龍宮城習无初一念也法性明入無明闇一義也

問龍宮皆无初無明方如何 答无初一念若惣不也々々

為畜生々々中以龍為本故也 問若然者以无初一念習魔

醜スラ一事如何 答或義云順縁初無明頭龍宮逆縁終無明

頭魔醜スラ宮也サテ無明有理智理頭城宮智頭天宮也

問順縁初逆縁終一無明也何成上下龍天一 答順縁時

無明法智明裏闇面也故此闇下在下也逆縁時智法

無明明面闇裏也故此闇上在天也 問第六天魔王如何

答十地有无品無明一如仁王等云

叡山三塔本尊事 問曰根本中堂本尊伝教大師

手自所造也像法転時衆生利益誓一每下下斧ウチウナツ

キくシ玉ヘリ薬師如来像也此薬師如来瑠璃壺不持如意

珠何尋常薬師像替玉ヘルく 尔者依何経説依此義

範云如此作事 俊範云此至極秘事也但亦非可云秘

事三千学侶可存知事故也サレトモ人不知事秘事也伝教大師

於坂本生源寺誕生而三寸金像薬師如来手把

生云説アリ又智証大師記文産生屋金薬師像現

此宿生本尊也 但此説本伝不見然而如此一先徳御

中本伝不載事慈覚大師於大唐參詣赤山大明神

捧法味之時明神有御納受。自劫初已來未願。如此法味。我隨大師本願。守円宗佛法。誓御産來我朝。已崇西坂本。此号赤山明神。此神彼本伝不載也。

教明産生屋現。見玉へトモ。手把誕生玉へルヲ。尔云也。異名。不可以取也。大師此本尊遊御願。終不離御身也。此宿生御本尊。為本造中堂藥師仏也。別非申経文義軌也。此藥師不持瑠璃壺而持。如意宝珠。々々々々。法花経也。如意宝珠。

故万法円満意也。法花経。文分明也。藥師法ケ教主。故也。付事中堂本尊藥師如來也。東方淨瑠璃世界仏界向レ西。可立向東。事不審也。重々習子細有事也。此藥師仏。止観院本尊也。止観本尊。一心三観也。一心三観。久遠

実成。尺迦也。一心三観即尺迦。意頭。東方向立事也。サレハ三塔本尊三仏似。各別。同仏也。東塔中堂本尊。藥師西塔中堂本尊。尺迦横川中堂本尊。観音也。此則寂光土。稱為尺迦法身大日。実報土。稱為藥師如來。報身如來。娑婆示現観世音。娑婆利益形。為本。稱為

観世音。本地尺迦法身大日。示現。故普門示現形。速分。三座。一山住。三身即一仏。示三塔各別形体也。云へトモ。以尺迦藥師。為本。三身一体。一山住。玉へリト書玉へル也。正法尺迦出世。仏法盛。一千年像法。又藥師如來像法。転時。導師。

一代八万聖教。弘宣棟梁。我山主本尊。示三千年。誓五濁惡世。利衆生。繼法灯於三會之曉。下我。

山於慈尊龍花。春朝也。止観院本尊。無化三身一心三観。故三世常住教主也。サレハ正像非無利益。正像仏出世近。

三学ス行盛也。末法教法漸スタレテ三学ス行ヲカナル故。末法ス行。此行独殘。故以弥陀。為教主也。極樂稱為無量壽。娑婆示現観世音。故弥陀即観音也。尋云。止観。修大行。下以四安樂行。為本也。於心地者。何一心三

観。々々法無化。三身為本体。無化三身。無量壽決定王。如來也。如何。教明云。引壽量品。云。醫師。喻說。此好良藥。藥師。法ケ経。為良藥。即阿伽陀藥也。根本中堂本尊。藥師仏。云。以法ケ経。為良藥。法花教主也。此教主尺迦也。尺迦無化。三身也。サレハ如意宝珠。為三摩耶形也。教明云。

実相院本尊。中堂藥師。世間。申也。如何。其藥師。御像異中堂藥師像。耶。実相院後冷泉院御願也。明快座主之時。造事然。伝教大師。宿生本尊。金葉師像。并紺紙金字。経。非六万九千。妙文。紺紙。面以金泥。南無仏。斗令書事也。伝教大師。以宿生本尊。付属慈覺

大師。云。如印。可修事。覚大師。亦付属承雲。言。天台座主。依勅命。遷代也。仍門跡。嫡流。承雲。付属。云。テ。以門跡。承雲。令付属。時。以此本尊。付属承雲。々々付属。尊意。々々付属安源。々々付属尋釵。々々付属明快座

主。々々々々時。從伝教七代之明快之時。以此本尊。奉納。実相院。藥師如來。御身中。実相院本尊。福。宿生。

本尊、長三寸造立朝夕行之當代為梨本門跡、

重宝也明快最後之時彼三寸本尊□流令記也

青蓮院梨本兩門不同也以正教二伝青蓮院以本尊、

伝梨本々々此慈覺大師門徒承雲為嫡流令伝事也

座主依勅命遷代職也門跡付屬承雲一以此本

尊令付屬間本尊嫡流付屬相伝云也教明云西京

座主本尊聖教一相伝也兩門別時以聖教二伝青蓮

院僧都以本尊納実相院三尺藥師像御心中也慈覺

大師云師跡聖教也所領田園等賢縁也正教為師跡也

時青蓮院此嫡流之梨本世間賢財本尊相伝事

聖教肝心十九箱等青蓮院相伝也問実相院本尊

御身中所納紺紙金字經何故只南無仏斗書有

平經聖教通号也經非唐正流通三修有以南無

仏為經一事不審也又何故以紺紙金字南無仏斗書

名法ケ經乎又此經誰人所持誰人書写乎三寸

金像藥師実伝教大師産屋現シ玉フト云トモ大師宿生本

尊歟此紺紙金字南無仏經何來縁乎教明云

伝教大師御宿生本尊金像藥師大師御誕生之時御

手把生也或産屋現シト云モ可一説サテ紺紙金字

經見正日記彼紺紙金字經奥書世々生々本尊持

經也令書也大師今生書歟又先生書歟不審也然後

經軸水精也彼水精軸中白銀藥師御座此宿

生本尊也書トヘリ明快座主之時本尊持經披覽記事

言紺紙金字經卷南無仏外無他字云々以事為持經

覺大師付屬承雲言如予可修事可修表記与事

至明快座主次第相承修事持事為經一事經義示事故

問伝教大師手自印相三摩耶形為西塔院本尊一体

名阿弥陀為淨土院阿ミタ堂本尊其様如何教明云

夜示供云文尺迦如来転法輪像法転時救衆生故号

藥師瑠璃光如来出世成道顯袈裟世界恩界教主之

時号尺迦像法之時号藥師如来也雖同仏也依

正像不同立二仏名或東西兩塔表淨土二王云也

所詮三塔本尊一仏異名習是也問横川中堂本

尊觀音立像何世何人造乎教明云覺大師渡唐

之時海上觀音像現此像凶也故中堂觀音唐船

様造也

根本中堂事問何故向東方乎答從中央法

界体性智一頭東方大円鏡智也惣而言事法ケ教主四方四

仏共可作安置也仍二念心即如来藏理如故即空藏故

即仮理故即中建立中堂也中者実相中道也堂

仮也本尊藥師如来空也サテ法花教主云事觀云

藥師其藥法ケ經是也所謂病即消滅不老不死

藥王二字可思事仏像安置受祈願文云婦命ヒルサナ如

来妙法教主亦名尺迦像法転時利益衆生称号藥師

瑠璃光仏亦住西方饒益有情称号無量壽飲如来安々略

御通告云

御願尺云法花心尺迦一仏之外無別仏真言以大日一仏之外無

余仏矣 正像末記云尺迦法身名ヒルサナ尺迦自受用身名

ヒルサナ尺迦化身名ヒルサナ同阿ムタラ三藐三菩提仏為止

觀院本尊矣如何 五大院尺云以四智初果仏為三菩提仏一 山家尺云

四智之初三身之果化現仏性開悟衆生此尊為最一 四智之

初者東方大円鏡智阿闍仏則此藥師也矣 四明安全義六云

問阿ムタラ三藐三菩提者何等哉 答大般若五百内云三菩提者

一者実性二実智三方便ナリ 実性ト者法身実智ト者自受用身

方便ト者心身矣 最勝王經云如來有三種身云何為三

一者化身二報身三法身如此三身具足撰受何ムタラ三藐

三菩提矣 山家御祈願文如上婦命ヒルサナ如來乃至亦名尺

迦或法身トイヒ 藥師瑠璃光如來報身無量壽命如來法

身所詮三身即一如來也ト可心得也設世流劫藥師云トテ

不持瑠璃器ト也印相藥師印相非也秘印也

一高祖大師止觀院本尊奉名阿ムタラ三藐三菩提仏ト事

又生々世々詫生我山ト事 法住方軌章云策ハヤシ心馬於寂

光都寄心寄實於妙覺台ニ生々詫生世間ニ世々讚衛

吾山ニ修三昧之行業ト弘一乘之如典トアムタラ三藐

三菩提仏等吾建ト冥加所在 世間吾立ト杣書事

僻事也其故杣字弘仁十四年修理筆師山田福告

作進之字也大師御代杣字不可有一矣

比叡山七重結果界安々略

内地御

一官省符結果 二凡聖同居々々 三邪正一如々々

四冥薰密益々々 五好世浄土々々 六開方便門々々

七示真實相々々 除初後六名内浄結果 如次為六即

結果一也浄利結果章惣通五行結果

延曆寺 在近江国志賀郡比叡山大乘峯寺

大界地十六ヶ周山四方各六重矣

結果地 東限比叡社并天地一 南限登美

溪ニ西限大比叡峯小比叡南峯一 北限三津浜

横川溪ニ弘仁九年四月廿一日 大政官符近江国

心早勘定言上正曆寺外堺事名官者首符結果以別本曹也

四至 東限江際南限忿谷 西限下水飲寫觀林寺

北限楞嚴院 大政官条延曆寺仁和元年十月十五日下符

定寺家四至内外西北兩守堺事 西限觀林寺寫下水飲

北限楞嚴院北限右彼寺并賀義下上社司各析申

兩守堺相違也状仍即差遣官使与三堺及社司共

令レ加実檢ヲ評定如件 吾好世浄土結果 亦名相

似即結果 東限香興谷南限長等嶋 西限向

真院一 北限護国院 口伝云香谷ト大宮前谷ト

登神藏寺行左山北谷長等嶋者無動寺也ナカラノ

山是也向真院入好世浄土境界也護国院ト西塔宝

幢院並當時空地也 六開方便結果亦名分真

即結界一東限隨緣不及不二門南限四生得益道

西限不反隨緣而二門北限一如頓証塚

口伝云不二門鳥居在小比叡杉北四生趣道者西坂本水

飲上馬背ヤウナル道也此神化処也而二門鳥居

者何処乎答云一如頓証者横川解說戒心香芳下界也

七示真実相結界亦名究竟即結果

東限補度幽嶺南上天秀嶂限西限戸羅奇嶽

北限保運湖底口伝云補度幽嶺者神宮寺下谷也

号仏谷上天秀嶂者叡南々々者東塔西谷近

谷也大石多谷也世人号四郎谷保運湖底者東塔西

谷下浄土院也南北谷水飲アル谷也

四明安全義漢成參人甲云桓武天皇者靈山之聽衆傳教大師者

一會之同聞也成合芳契靈山席垂利生於扶桑之境

天皇掌王道以崇仏法翰民間大師興仏法以

護國家利郡生王道之本源在周易仏道之指帰

在一乘儒教釈教内外理御遺告文相同之

山家大師初登当山時值化人自讃曰口伝

我者靈山法花聽衆入重玄門倒修凡事矣

弘法大師被進于傳教大師御状云阿闍梨空海

稽首和尚去仲春之比雖獻上書未散醇望之

間重以子細狀去延曆廿三年遠渡大唐國伝真

言兼問梵字悉曇等大同三年入帝都普弘伝

東寺西寺臣下皆感悅之抑空去海於悉曇有聊

所願須亦渡蒼海決疑唯願者蒙阿闍梨加被

欲極整其源底耳凡昔靈山共仏所殖善種子

勝果咸今生同遊兩朝振芳名之響實是宿因

所催貴而有餘舉状乞努々不慳委曲肯莫

違古今契約耳阿闍梨空海稽首和尚

弘仁三年四月十四日阿闍梨空海敬白

件變状留東寺不及世流布也東寺天台勝劣相

論之時備山門証文東寺不捧彼返状云此状弘法

伝教共靈山聽衆見又心經秘鍵之終弘法靈

山聽衆見

法花一処三會事示云二処者事理二王也三會

者三諦三觀三身等也前十四品靈山會空也次虛空會

中也彼靈山會仮也但以虛空會為中道事中道者無方

□分限故也虛空為座円仏事住中道故也次靈山

二會為空仮事前十四品正字捨專取勝三周得悟聲聞

顯拜述成等四修皆是空意也彼靈山會流通分故云仮

也從深至淺三藏故也又土祓穢淨穢交也仮諦者百

界千如為面故也尺云火焰向空理救滅滅水流趣海法尔

無停此意也尋云以二処為事理土如何

答義云靈山、寂光也、又自受用土也、虛空會三諦、尺迦、

智也、空也多宝、理也、中也、地涌等菩薩、一切所化、衆、飯、也是、亦

三身也多宝、法身尺迦、自受用身所化、菩薩等、他受用心

化身也、靈山、三諦、空中、如前三周、声聞等、一切所化、是、飯也、

其故、十界悉化、故也、各々、頭三身三諦、先於二乘等、專

說、得、理、空、也、得、記、化、仏、等、飯、也、自、體、中、道、也、多、宝、得、明、

空、也、涌、出、飯、也、自、體、法、身、也、尺、迦、說、法、飯、也、多、宝、並、座、

空、也、自、體、法、身、也、又、無、化、三、身、時、自、體、各、各、有、二、身、三

諦、也、我、等、一、念、心、在、不、在、共、一、處、三、會、義、或、尺、迦、多、宝、一、仏

三、周、声、聞、地、涌、等、菩、薩、也、云、事、天、台、学、者、可、知、事、智、也

尋、云、法、ケ、經、明、女、人、成、仏、為、規、模、事、如、何、答、云、法、ケ、經、八、才、龍

女、成、仏、為、規、模、事、以、妙、一、字、可、意、得、也、妙、字、小、女、書、

八、才、者、八、正、也、又、八、相、八、葉、八、教、也、表、始、八、円、二、座、宝、蓮、ケ

云、也、智、証、大、師、尺、法、ケ、龍、女、成、仏、規、模、時、又、為、畜、趣、成

仏、規、模、義、云、女、人、成、仏、規、模、也、以、道、理、思、事、時、畜、生、成

仏、可、レ、云、也、其、故、法、ケ、開、會、三、道、即、三、德、開、故、畜、趣、心

示、自、受、用、身、智、惠、可、開、也、故、畜、生、成、仏、云、事、可、然、事、也

其、故、偏、趣、異、畜、等、文、如、此、習、也、凡、迹、門、以、妙、字、為

規、模、本、門、以、法、字、為、等、習、事、也、此、法、門、悉、深、ヒ、密、事、也

自、昔、不、顯、書、只、口、伝、法、門、也、雖、爾、濁、世、末、代、機、根、弥、

能、也、不、顯、筆、跡、者、仏、法、秘、事、可、專、施、故、不、願、大、師、御、誠、

背、先、德、誓、文、荒、々、注、二、宗、大、事、者、也、山、王、大、師、已、說、也

不可、処、聊、尔、也、是、法、ケ、全、體、也、書、不、窮、言、々、不、聞、意、

事、依、俗、遺、篇、也、可、思、事

文、永、八、年、八、月、廿、五、日、於、粟、田、口、住、房、書、寫、畢

色、究、竟、天、事、仁、王、等、初、地、菩、薩、為、二、焰、浮、提、王、乃、至

十、地、菩、薩、為、色、究、竟、天、王、說、事、一、往、ア、テ、事、也、実、色、滿、足、故、

名、色、究、竟、也、色、十、界、三、千、也、十、界、三、千、色、究、竟、故、也、故、頭

報、仏、成、道、処、也、所、以、甫、止、記、云、三、世、仏、皆、色、究、竟、者、起、信

疏、問、他、受、用、身、何、故、在、色、究、竟、天、乎、答、一、頭、三、十、王、奇、

別、十、地、一、故、以、十、地、菩、薩、約、果、報、當、彼、天、故、花、嚴、疏、云、初、地

菩、薩、化、閻、浮、提、王、乃、至、第、四、禪、中、道、色、究、竟、天、对、二、第、十、地

菩、薩、一、矣、目、出、得、拠、也、過、淨、居、天、亦、其、上、非、有、色、究、竟、天、也

只、仏、果、色、滿、足、位、故、過、第、十、地、色、滿、足、云、也、十、地、菩、薩

唱、色、究、竟、成、道、云、也、尋、云、魔、醜、ス、ラ、王、者、色、究、竟、天、主、也

其、方、如、何、魔、醜、ス、ラ、王、者、无、品、無、明、頭、事、也、妙、覺、仏、者

法、性、妙、理、頭、事、也、サ、テ、無、明、法、性、同、體、而、其、用、口、也、伝、教

大、師、尺、魔、界、即、仏、界、文、二、云、從、仏、界、一、出、生、魔、界、故、不、成

障、碍、云、々、魔、仏、各、別、時、成、障、碍、也、問、依、魔、仏、一、如、

說、魔、不、成、障、碍、者、理、性、魔、界、無、其、德、可、云、歟、答、云、醜、前

醜、門、意、一、如、不、二、日、魔、仏、不、二、日、魔、仏、不、二、可、レ、施、各、別、德、歟

一、如、不、二、方、各、可、施、其、德、也、本、門、心、本、覺、魔、界、故、障

碍、一、切、法、可、隆、盛、也、問、指、要、抄、云、諸、法、本、生、執

之、為、実、始、從、無、間、終、至、金、剛、皆、有、此、念、若、不、為、実、

鐵床非苦。反易非遷。此念若聞。即名妙覺。化。

此觀。時地獄。非苦。生死。非無常。聞。是迹門。意歎。

本門。心本地。々獄界。故猛火。氷。亦隆盛ナルヘシ。苦。

患尤モ可忘深。歎。又本地。生死也。尤無常ナルヘシ。乃至餓鬼。

畜生。苦患亦彼如是。問生死。二事是本地生死。

方如何。答。六道。衆生。無始已來。生死是名。為成等正。

覺也。尺云。仏於三世。等有二身。於諸教中。秘云。不伝。此心也。

問。經云。若生人天中。受勝妙樂。花果果報中。何乎。

答。常義也。花報也。此義。練磨。義歎。實。是。円実果報也。

生死本妙。事如常無生死也。

毘沙門堂三休土仏事

彼伝法記云。推古天皇即位十五年。丁上宮太子始見。

百枝土仏。備香花灯明。供養。被承敬礼。拜信心。南。

無三世覺母大聖文殊師利菩薩。南無當來導師。慈尊。

大菩薩。南無一切本有薩埵。普賢大菩薩等。國家。愍護。

饒益有情。彼時三仏各放。二々光明。現種々靈異。

此文最秘決也。三仏土像文殊。弥勒。普賢。治定矣。

注方 彼伝法記云。取意云。

妙樂大師供養。此三諦土像之時。不及。別讚嘆。表白。唱。

三偈。文殊師利大聖尊。三世諸仏以為母。十方如來。

初。心。皆是文殊教化事。

普賢身相如虚空。依心而住。非円土。隨諸衆生心。所願示。

現普身等一切。其後。當化。仏号名曰。六広度諸衆生。其數無有量。唱。此三偈也。三種靈現云。事有口決。

四德波羅密事 問常樂我師四德ハラ密方如何

答常不被無常。故名大常。樂不被苦。故名大樂。我不被。

無我。故名大我。淨不被不淨。故名大淨。無上。依經云。

大淨ハラ密。知三種。不損。滅無常。諸行。出過。祈。

見。故亦不增。益常住。涅槃。出過。常見。斗諸行無常。

即名專見。若斗涅槃常住。見一名常見。依四說源。翻。

四諸例。常樂我淨。

応永廿年七月十日伝之 永範 於山門首楞嚴院都率。

谷善法房書写之 此御本者問答日花藏分相伝事可秘也。

光榮 文安四年丁卯六月八日伝之 於常州中都。

莊嚴郡藏福寺談所相伝事可秘矣 秀海

雜々抄 三川僧都良意伊賀往生院學頭代官也。

彼寺門流代々學頭持也。良意。心賀。法印。御房。每年。

隨身。御弟子也。以口決。書。此書。奉見。心賀。令。加。添。削。探。

題抄。以心賀。仰。口筆也。三大部。伊抄者。下野僧都。祐朝。

書矣。此人。往生院。學頭代官也。此。良意。弟子。心聰。奉。值。

門流。學問。申。此。見聞。心聰。藏。居。書。也。此抄。金鑽。下。

事。豪海。心榮。法印。京都。御。經。時。上。學。問。申。其。時。仰。云。

伊賀抄。往生院。祐朝。類。教。三大部。見聞。山上。無之。

私。見聞也。書。可。読。其。後。大和。阿闍梨。有海。金鑽。廿七。

才下學問申豪海京下此事伊勢行本書同

見聞取下為一夜金鑽近辺人夢想天照太神

万騎斗金鑽天台弘法為守護御人夢ミル不思議云々

私云此見聞俊海法印明徳三年正月廿八日金鑽御

入有二月一日御帰同三日夜珍海聖海陰海三人口筆也

雜々聞書 私云明徳二年九月四日雜々抄為所

望金鑽心源法印御房陰居処シヲ谷尺迦堂同阿弥

陀堂參即雜々抄令免許此抄伊賀往生院三河

僧郡良意心賀法印御房三十余年隨身申所口決

大事三条記録大親町殿奉見有御披覽相遺処

令加添削此抄豪海法印心源有海心範心運使四人

往生院一条室町心葉房御座時若干披報謝勳

行祈念夢想告有矣所令書写也三十帖與書悉心葉

御筆御勢形因所望現達故随分捧報謝令許矣

又出自房筆者七人以廿五日令書写一七日写畢

明徳三年正月八日写本同令持參随分被其切又探題

抄心賀法印以良意僧都令口筆抄也其外問要抄三

卷秘伝抄三卷令書写報翻於法印御房処豪海

法印御房備靈供令之向學駿達被之向其夜心源

法印物語云心葉仰仏最後阿難尊者根本法授

一言事有矣阿難一代聖教結果導師令示故阿泥

樓頭云阿難結果導師也仏今涅槃不審可尋

申其時仏設三種問報其中一代聖教初何言

可置申如是我聞可置此如是我聞根本法ケ習也

根本法ケ者仏法根本也故權実説教同是縁起故

一代聖教最初如是我聞置也故是根本法ケ習也

故阿含部如是我聞如是我聞如空是中道我仮諦

也中道空スルハ阿含也法ケ顯現法ケキ縁即法界開故

如是中我聞ヨム也根本法ケ大小權実云其体不

動故只是我聞也故陰密法ケ時是如ヨム也顯現法

ケ時如是ニストヨム根本法ケ時如是我聞説也惣仏教

一代拜行説悉不出三諦一仏法大意大師独得意教

行説共以三諦聞事誠ユシキ事也故一代聖教階

言如是我聞置如空是中道我仮也

尋云大師天機秀口直行々者也行於拜智不下住

法花觀其法ケ説取処得云ス行直行説止觀三

千觀直達門流觀行即得位習也智一心三觀現前

可思矣然其得拋如何口決云心要南岳伝天台正行

正觀也彼心要於拜無矣仏般二重止觀只是妙行也是為

得一口決云南岳拜行機位叶六根淨云時達二南

岳正行備鑑機徳大師直行機尺正行三

千直授故大師有任正行三千觀達也故心要

為其得天台直行キ定也

祭礼本說事

涅槃經云或復示現說大祠祀於中不惱諸有情類因此
化道无量有情令正道矣

日吉祭礼事

一乘沙門仁惠記云延曆十年歲次辛未四月中壬申周庇

山王靈詫先師敬神始行日吉祭礼当日於日吉

社壇講法花經以先師為講師以善珠行賀為問

者々々二人南京僧云天皇御願云

七社御興二社八王子三宮上事表虚空云也客人

聖真子大宮興大宮十禪師二宮興二宮大宮

方十禪師方也是靈山会二処表也是即二処三

会化儀也

明普阿闍梨蘇生記云慈惠大師御弟子頓死而蘇生人也

顯日吉十禪師一結衆生順逆之縁現司命司錄報考

衆生罪福之品云々々山家要決集云法性分私記云

大聖歡喜天石神者社頭荒神矣口伝云十禪師聖天

云事池上記中有矣云々多婆天廉乱神苦荒神異名

无品無明是也宇賀神經出矣一実矣

伝教大師神藏寺始山御登山七月十七日甲午山王

值事同七月廿六日也畢

天和二年七月廿六日相伝之訖

山門兜率谷雞頭院嚴覺